

栗っこズッキーニグリーンな栽培の手引き

「栗っこズッキーニ」栽培暦

栗っこズッキーニキャラクター
クリッキーニョ

		3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
ハウス	春作 抑制	●	●		▲	▲		■						●		▲	■														
露地	春作 抑制				●	●		▲	▲		■					●	●	▲	▲	■											

●

播種

- - -

まき時

▲

定植

- - -

植え付け期

■

収穫

立体栽培の特徴

☑軽労化

作業姿勢の改善により、管理・収穫作業がしやすくなり、作業時間の短縮につながる。

☑反収の向上

- ①密植が可能 株が横へ倒れないので、省スペースで栽培することができる。
- ②収穫期間の延長 長期どりが可能となる。

☑秀品率の向上

①泥はねや果実の擦れの軽減

地面に葉や果実が接することが少なくなるので、泥はねによる葉裏や果実の汚れや、果実の傷が少なくなる。

②採光性の改善（着色が良くなる）

地這いよりも葉が重なりにくく、光合成がしやすくなる。また、果実が地面に触れないので腹白果の軽減につながる。

③通気性の改善（病害虫の予防）

下葉を落とすことで風通しがよくなり、病害虫の予防につながる。

④収穫遅れの防止

果実の見落としが少なくなり、収穫遅れや果実の過肥大を防ぐことができる。

！注意点！

露地栽培では茎を固定すると、強風時に生長点が激しく揺さぶられて折れることがあるので、固定方法を工夫する必要がある。

生分解性マルチの特徴

マルチ栽培は、地温上昇のほか、雑草の発生や肥料の流出抑制、泥はねによる病害回避の効果がある。さらに、生分解性マルチを使用することで、**収穫後にフィルムを剥がすことなく、そのまますき込むことができる**ので、作業が省力化できる。

マルチ名称	カエルーチ	キエ丸	きえ太郎Z
	 	 	 
製造販売	三菱ケミカルアグリドリーム株式会社	株式会社ユニック	サンテーラ株式会社
バイオマス由来成分	含有なし	含有あり	含有あり
伸びやすさ	○	×	×
中心線（模様）	点線	なし	中心にロゴあり
検証ほ農家の感想等※	・ 分解が早く、ボロボロになりやすい。 ・ 雨・風の影響を受けて、穴が開いてしまっている部分があった。 ・ 伸びるため、穴が空にくい。		
	・ つや消しで見栄えが良い。 ・ 伸び縮みしやすく裂けやすい。 ・ 伸びないため、穴が空きやすい。		
	・ キエ丸と同じような速度で分解する。 ・ 伸び縮みがしないため、土との隙間が開きづらく風に飛ばされない。 ・ 耐久性が高い。		
	・ 生分解性マルチはすき込むだけなので、剥がす手間がなくなり、天候にもあまり左右されず作業ができるので、非常に楽になった。 ・ 機械で張るとたるまないため、キワが壊れやすい。 ・ 生分解性マルチは通常のマルチと比べて伸び縮みしないので春先の風による痛みが少なかった。		

※「検証ほ農家の感想等」については、生産者の主観によるものであり、一部意見に食い違いがあります。

栽培後は、周囲へマルチのかけらが飛散するのを防ぐため、**2回以上すき込み**を行う。

立体栽培の仕立て方

～準備するもの～

①支柱



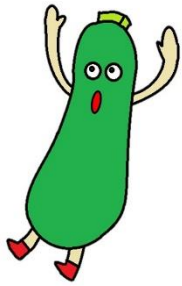
イボ竹、パイプハウスの廃材、竹など様々な支柱が利用できます。

長さはズッキーニの生育する高さに合わせて、150cm以上がオススメです。

②紐

平ビニールひもや麻紐、誘引結束機が使用できます。

紐を結んだときの食い込みが少ない平ビニールひもがオススメです。



～手順～

①寝てきたズッキーニの株元に支柱を刺す



ズッキーニの株は寝ている状態

②ズッキーニの株を起こす



根元から株を持ち上げる

△このとき、

- ・ 茎が折れないように。
- ・ 幼果を傷つけないように注意する。

③紐で結ぶ



一人が株を持ち上げ、もう一人が紐を結ぶと、楽に作業ができる。

④完成



⑤株が寝てきたら・・・



生育に合わせ、株が倒れてきたら、
その都度紐で持ち上げて結ぶようにする。

○葉柄で結ぶやり方



①株元から少し離れたところに支柱を刺す。

②株を持ち上げる。

③葉柄で紐を結ぶ。

→葉柄に2回巻き付けて、支柱に縛る前に
1回ねじりを入れる。

④完成



ねじりを入れることで、
きつくなりすぎず、
葉柄が傷むことを防ぐ

立体栽培のワンポイント 🍷

○株が寝る前に・・・

株が寝てから持ち上げると、どうしても茎
や幼果への影響が生じることがある。

そのため、株が小さいうちから株元に支柱
を立て、支柱に寄りかかるよう生育させるこ
とで、持ち上げる作業を回避できる。

